

## 山柘 行雄 プロフィール

- 1919(大正 8)年 現 鳥取県倉吉市に生まれる。
- 1937(昭和12)年 鳥取県立倉吉中学校(現 倉吉東高)卒業。在学中、中井金三の指導を受ける。
- 1943(昭和18)年 一水会展「杜はづれ」初入選
- 1943(昭和18)年 東京美術学校(現 東京芸大)油画科卒業。卒業制作「窓辺」二席・黒田清輝賞
- 1943(昭和18)年 鳥取県立倉吉高等女学校(現 倉吉西高)教諭となる。
- 1946(昭和21)年 日展「私の先生」初入選
- 1947(昭和22)年 郷土の芸術団体「砂丘社」再結成に参加。(第三次砂丘社)
- 1950(昭和25)年 「倉吉美術協会」創設に参加。
- 1952(昭和27)年 大潮会展(当時、文部省後援の全国美術教育者展)「夏服の少女」初入選・特選
- 1953(昭和28)年 「シニョリーナ フランチェスカ」大潮会賞、大潮会員となる。(以後会員努力賞4回)
- 1961(昭和36)年 倉吉市展審査員(以後毎年)、大潮会審査員となる。
- 1963(昭和38)年 一水会員となる。
- 1967(昭和42)年 欧州9ヵ国研修(40日間)、その後5ヶ月間パリ、トレドなど滞在。
- 1968(昭和43)年 一水会展「パリの谷間」会員佳作賞
- 1970(昭和45)年 鳥取県展審査員となる。(以後運営委員・審査員)
- 1977(昭和52)年 鳥取県議会棟に永年勤続議員の肖像画を掲示することが決まり、土谷・竹の家議員を描く。(以後、独占的に依頼される)
- 1980(昭和55)年 鳥取県立倉吉西高等学校 定年退職
- 1981(昭和56)年 画塾を母体としたグループ展「ダブル・ナチュラル展」を以後、ほぼ毎年開催する。ここより中央展・県展受賞者など多くの後進を輩出する。
- 1988(昭和63)年 画業50周年展(6月米子市美術館、6月～7月鳥取県立博物館)
- 1989(平成 1)年 「山柘行雄 画集」鳥取県出版文化賞(新日本海新聞社主催)
- 1993(平成 5)年 日展会友となる。
- 1995(平成 7)年 画業60周年展(倉吉博物館)
- 1996(平成 8)年 多年にわたる市展審査により倉吉市功労表彰を受ける。
- 2000(平成12)年 「山柘行雄 洋画展」(青谷町教育委員会・あおや郷土館主催)
- 2002(平成14)年 「山柘行雄 洋画展」(国民文化祭応援事業、鳥取県教育委員会など後援、画廊倉吉美術)
- 2003(平成15)年 第1回鳥取県芸術文化賞受賞(この賞制度は、次年度以降“鳥取県文化功労賞”として継続)
- 2003(平成15)年 渡辺美術館開館25周年記念特別展「山柘行雄 レアリスム65年をふり返る」(鳥取県など後援)
- 2006(平成18)年 「山柘行雄 画集Vol.2」刊行
- 2006(平成18)年 画業70周年展(倉吉博物館)
- 2006(平成18)年 地域文化功労者(芸術文化) 文部科学大臣表彰
- 2011(平成23)年 永眠する。